

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センタースイスイなかま (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和6年11月29日		～ 令和7年3月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年3月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月28日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・家族療育をおこなっており、家族全員が療育のプロセスに参加することで、家族が療育の具体的な方法を学ぶことができる。	事業所と家族が子どもの特性や課題について共有し連携をおこないながら、一貫性のある支援をおこなっていくことを意識している。	改めて療育は、保護者を含めた、本人を取り巻く環境が大切である。子ども保護者を含め一人ひとり違うので取り組める範囲の違いを細かく見て、その方に合わせた支援の提供を行なっていく。その子、その保護者に合わせた適切な支援が行えるよう日々高い専門性の習得に努力し続けていきたい。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童発達支援センターとしての役割を担うに必要な人材の育成と人材の確保。	・高い専門性をもった人材の確保定着のためには安定した財源の確保が必要である。しかし、家族療育をおこなう児童発達支援では、併用する保育園等の行事参加や保護者の仕事の都合により欠席などあり運営上の課題となっている。	家族療育の重要性を感じる中、共働きの当たり前となった社会と社会全体の人材不足の影響などで、保護者が療育への参加のために仕事を休んで参加する環境が整っていないと思われる。国が示す子の看護休暇制度の中に療育への参加も休暇理由のひとつとして認めていただきたい。仕事を理由での療育の欠席が減らせ、収入確保に結び付けられると考える。
2			
3			